

47 扁平上皮癌

Squamous cell carcinoma

概 説 粘膜上皮から発生する癌腫。口腔では最も発現頻度の高い悪性腫瘍。

分 類 非歯原性、上皮性、悪性腫瘍

好発部位 舌側縁 > 齒肉 (下顎 > 上顎)

好発年齢 50 歳以上

性 差 男性 > 女性

経 過 短い。悪性腫瘍であり、短期的なスパンで大きさに変化が出る。

転 移 頸部リンパ節に高頻度に転移する (頸下リンパ節、上深頸リンパ節)。

血行性にも肺などに転移するが、リンパ節転移よりずっとあとことが多い。

肉眼所見 潰瘍性病変：周囲の堤防状の隆起と中心部に潰瘍の形成を示す。

癌性潰瘍の特徴：辺縁隆起、周囲硬結、中心部の出血

白色病変：表面が白色 (角化の亢進) を示す。

隆起性病変

組 織 像 癌真珠の形成をみる異型上皮の浸潤性発育。

高分化：癌真珠の形成を示す角化の強いタイプ。最も多い。

低分化：角化がほとんどないタイプ。異型性が非常に強い。

中分化：その中間。



高分化型扁平上皮癌の組織像は高頻度に出題されている。94回は3問出題された。どれも比較的平易な組織像であり確実に正解しなければならない。基本は癌真珠を探すことである。扁平上皮癌の発生部位は、国家試験では歯肉が多い。肉眼的所見は潰瘍性が多く、ついで白色病変である。

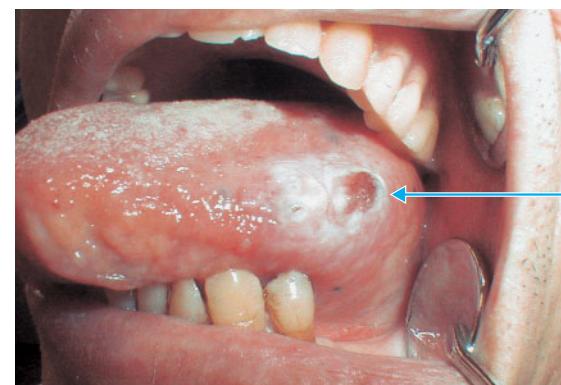
国家試験での平均年齢は66歳であるが、近年、口腔扁平上皮癌は若年化の傾向があるので、30歳代の症例が出題される可能性があることも考慮しておきたい。

経過は、基本的には数か月単位での出題である。プール問題での出題が2回あった。

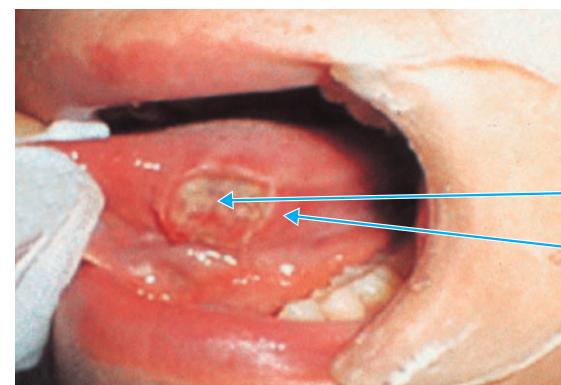


Point! 経過が1~4ヶ月程度で、50歳以上、潰瘍性病変があれば間違いなく扁平上皮癌の問題である。癌真珠を探すこと。

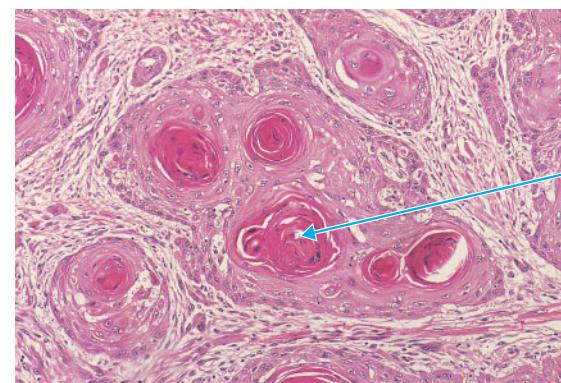
関連事項：扁平上皮癌の亜型として、疣状癌と紡錘細胞癌がある。疣状癌は、上皮内に癌がとどまっているが、下方へ進展し浸潤を示す。しかし転移しない予後のよい悪性腫瘍である。紡錘細胞癌は、肉腫を思わせるような紡錘形細胞の密な増殖が認められるが、免疫組織化学的染色でケラチンに陽性を示し、扁平上皮の特徴をもつ。



境界不明瞭
白斑とびらんの混在

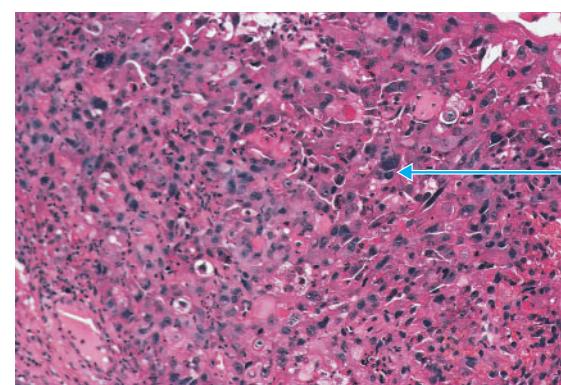


癌性潰瘍
堤防状の隆起



◀高分化型扁平上皮癌

癌真珠
間質



◀低分化型扁平上皮癌

強い異型細胞